

令和6年度 京都府立与謝の海支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	令和5年度学校経営計画の成果と課題	本年度学校経営の重点目標（短期目標）
<p>◇一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程づくりを進める。（12年間を見通しながら）</p> <p>◇自立と社会参加する力を育てるために、基礎学力の充実に努めるとともに進路指導の充実に図り、希望進路の実現を目指す。</p> <p>◇安心・安全な学校環境の整備を行う。</p> <p>◇地域における特別支援教育のセンター的役割の推進に努めるとともに、教育、医療、保健、労働、福祉等の関係機関、家庭及び地域社会との連携を行う。</p> <p>◇専門性の向上に向けて研修を充実させ、指導内容や指導方法の工夫改善を行う。</p> <p>◇教育財産の継承に努め、「与謝の海の教育」の発展・向上を図る。</p>	<p>○12年間の系統的を踏まえた教育課程の編成と実施に効果的に取り組めるよう学習内容の「見える化」に着手するとともに、各学部においてそれぞれの教育課題に応じて効果的に授業実践を進めることができた。</p> <p>○個別の指導計画について、保護者と目標と評価を共有する手段とするなど、引き続き活用することができた。</p> <p>○昨年度の研究と実践の成果を踏まえ、研究部を中心として引き続き全校で地域協働学習の実践に更に有効かつ具体的に取り組み、地域社会とつながりあう教育実践を深めることができた。</p> <p>○引き続き組織的なきめ細かな進路指導を進め、生徒の希望進路を実現することができた。学びの履歴やキャリアパスポートの活用を定着させ、12年間を見通したキャリア教育の視点をもって全学部において系統的な取組を行う必要がある。</p> <p>○避難訓練や不審者対応訓練を実施して、引き続き一定の成果をあげることができた。限定された範囲での引き渡し訓練等、新たな取組を行ったがさらに拡充し、中長期的展望をもった計画の策定を行う必要がある。</p> <p>○増加しつつある地域のニーズに応え、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない継続した支援を充実させることができた。</p>	<p>【教育課程】</p> <p>◆12年間の系統性を踏まえ、児童生徒の能力や可能性を最大限に引き出し、自立と社会参加の力を育てる教育課程の編成と授業改善を組織的に進める。</p> <p>【個別の指導計画等】</p> <p>◆的確な実態把握に基づく指導目標の設定やよりよい評価の在り方を引き続き検討するとともに、個別の指導計画等が指導や支援にさらに生かせるようにする。</p> <p>【地域連携】</p> <p>◆子どもたちが地域で生きていく力を育むため、地域との連携・協働による授業実践をさらに進めるとともに教育課程の改善へつなぐ。</p> <p>【進路指導】</p> <p>◆本校が継続して取り組んできた進路指導を更に充実発展させるとともに、一人一人の希望進路の実現を目指し、キャリア教育の視点をもって全学部において系統的な取組を行う。</p> <p>【防災教育】</p> <p>◆従来から取り組んできた校内の防災対策や安全・防災教育をさらに充実させるとともに、中長期的視野に立った計画を策定し、実施する。</p> <p>【センター的機能】</p> <p>◆関係機関との連携を密にして、地域のセンター的機能をさらに発揮し、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない支援のさらなる充実を図る。</p>

	<p>○研究部を中心に全校的な研究を進めることができた。総合教育センター等による参加型の研修に積極的に参加する教員が増えた。</p> <p>○各部長がマネジメント能力を発揮して組織運営を円滑に行うことができた。感染対策を緩和する中で充実した教育活動を追求しようとすることができた。</p> <p>○ホームページの改編が広報活動の見直しを行うきっかけとなり、従来より充実した広報活動を展開することができた。今後更に効果的な発信に努める必要がある。</p> <p>○衛生委員会の取組により教職員の業務改善の意識が向上した。また、学部等各部署において業務の効率化が具体的に図られた。</p> <p>○コンプライアンスに係る調査を実施して経年比較を行い、教職員の実態に応じた研修を行い意識の向上を図った。今後も継続して取り組む必要がある。</p>	<p>【研修】 ◆多様な障害に対応する学習環境づくりのために、教職員の専門性や資質を高める組織的な取組のさらなる充実を図る。</p> <p>【組織運営】 ◆各部長のマネジメントのもと、より効率的な学校運営を目指すとともに、行事や取組について見直し、教育活動全般のさらなる改善を図る。</p> <p>【広報活動】 ◆ホームページや関係機関との連携等を通して積極的に広報活動を行い、本校の教育活動が伝わるように工夫をすることで効果的な発信にさらに努める。</p> <p>【業務改善】 ◆働き方改革に係る業務の効率化を図るとともに、やりがいをもって業務に取り組めるよう取組を進める。</p> <p>【コンプライアンス】 ◆コンプライアンスに係る意識を高め、引き続き府民の信頼を得られるように努める。</p>
--	---	---

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	
----------------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	
---------------------------	--